京大URA報告
「京大の10年後の姿をイメージして」

06. 逆風を乗り越える「人社系」

May 29, 2017

京都大学 学術研究支援室

神谷俊郎

人社系に吹いた「逆風」

いわゆる「文系学部廃止論」の発端

- 「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しに関する視点」について（案）（平成２６年８月４日）
- 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し（文部科学省通知）（平成２７年６月８日）

時代背景・世論

大学の研究力低下？　理系シフト？
少子化？　世論？　産業界？　財界？
有識者会議？ 産業競争力会議？
国際的潮流？

「人社系は何をしているかわからない。もっと**成果**を見えるようにせよ！」
「人社系は役に立たない。学術を探求するより、**実践的**人材を育成せよ！」
「人社系は儲からない。もっと**産業**に寄与せよ！」
「人社系は**国際化**できていない。もっと英語で発信せよ！」
「人社系は甘えている。もっと**競争・ランク付け**をせよ！」

⬇

人社系にＵＲＡは必要！

京大URAの「人社系研究支援」

H23-24　H25　H26　H27　H28　H29　現在

学術研究支援室（KURA）

6/8通知

本部構内（文系）地区ＵＲＡ室
文学研究科、経済学研究科、経営管理大学院、法学研究科、他

南西地区ＵＲＡ室（地域研究・学際学域）
東南アジア研究所、アジア・アフリカ地域研究研究科、こころの未来研究センター、アフリカ地域研究資料センター

地区URA室を統合し学術研究支援室に
人文社会科学系グループ設置
（５名の専任URAを配属）

「人文社会科学研究支援プログラム」スタート

#1.資源整備・成果発信
プロジェクト

多様な研究資源や成果出版物の情報発信
― 書籍、論文、翻訳、翻刻、目録、教科書、判例解説、映像資源など ―

#2. 外部資金獲得
プロジェクト

人社系ニーズに沿った資金獲得支援

#3. 研究力可視化
プロジェクト

「成果が見えにくい」研究の可視化のための調査・提案

目的　京都大学の強みであり、学風の根幹となっている人文社会科学系の研究力強化に他大学に先駆けて取組み、学際融合研究の土壌を醸成する研究環境を整備する

「人文社会科学研究支援プログラム」ビジョン

- **書籍・図書**出版業績への評価が高まる
- 人社分野へ**助成の重要性**が認識される
  （同時に、助成が不要であってもそのことが不当に評価されない）
- 研究の**質的評価**の手法が分野ごとに整備される
- 学域超越・文理融合が進み、学際・産連・社会課題解決プロジェクトへの人文社会分野からの参画が増加することによって、**社会への具体的な貢献**が明確になる

#1　資源整備・成果発信プロジェクト

情報発信による研究力強化

学内の研究資源と研究成果を広く社会に発信するためのアクション

- 学内研究資源の保存・連携・利活用のプラットフォーム構築支援
- 新しいビジネスモデル構築に向けた情報収集（出版、翻訳助成など）
- **京大研究者による新刊図書紹介のサイト・SNSサービスの構築**

京大新刊情報ポータル立ち上げ（平成29年4月～）

本ポータルは、京都大学URAによる「人文社会科学研究支援プログラム」の一環として、京都大学研究者の論文以外の研究成果出版物（書籍）の情報を発信し、その研究成果と研究の知見を京都大学内外に広く伝え、社会と研究者をつなぐプラットフォームとなることを目的としています

- 部局/分野/年度等によるソート機能
- CSVダウンロード機能

実績評価とりまとめ作業にも利用可能

#2. 外部資金獲得プロジェクト

資金獲得による研究力強化

研究のスケールアップのための研究者支援アクション

- 公募型資金情報サイトの充実
- 人社系バックグラウンドを持つURAによるプレアワード支援
- Face-to-faceを重視したポストアワード支援
- 人社系に特化したファンドの学内説明会開催
- 大型・国際・学際・社会課題解決型のチーム形成支援　など

人社系分野の助成財団POを招いた学内説明会の開催

なお、平成28年度実績科研費申請支援においては、人社系URAが申請支援した研究課題の採択率が**66%**に達するなど、すでに顕著な成果をあげている

#3. 研究力可視化プロジェクト

価値の可視化による研究力強化

人文・社会科学系分野のアウトプット特性に関するヒアリングの実施

論文データベースに反映されない研究成果とその可視化に向けた試み

A. **Scopus上の**論文掲載量と、**現実の**研究活動量を比較し、矛盾点を洗い出し

B. 芸術学・言語学・史学・社会学・哲学・文学・法学等について、Aの資料を示しつつ、個別研究者へ直接ヒアリング（2017年1月～5月）。

＃これまで学内28名の研究者にヒアリング済み（現在、取りまとめ作業進行中）

目的

- どのような研究／研究者が「高い評価」を受けているのかを知り、分野ごとにまとめる
- 分野ごとのアウトプット（成果発信の方法）の特性を知り、可視化する

→ より正当な評価が受けられるよう、**提案**を発信

国内人社系支援ネットワークづくり

「人文・社会科学系研究推進フォーラム」の企画・共催

- 2014　第１回「人文・社会科学系研究推進に必要な共通基盤整備を考えよう」
  ＠大阪大学（大阪大学・京都大学・筑波大学）
- 2015　第２回「人文・社会科学系支援の三手先を考える」
  ＠つくば国際会議場（筑波大学、大阪大学、京都大学、早稲田大学）
- 2016　第３回「地域と共に新しい“ジンブン”力を創造する人社系研究の展開」
  ＠琉球大学（京都大学、筑波大学、大阪大学、早稲田大学）

今後の予定

- **2017年度（第4回）は京都大学にて開催予定（2月頃を予定）**
- **2017年度より、年3回程度の「情報共有会」定期開催をKURAが主催**

URAシンポジウム、RA研究会、RA協議会における人文・社会科学系セッションの企画・発表

- 2013　第３回URAシンポジウム・第５回RA研究会合同大会セッション「人社系支援のあり方」
  ＠京都大学（京都大学・大阪大学・東京大学）
- 2014　第４回URAシンポジウム・第６回RA研究会合同大会セッション「人社系分野への研究支援と研究評価～グッドプラクティスを探る～」
  ＠北海道大学（京都大学・筑波大学・大阪大学）
- 2015　第１回RA協議会セッション「人社系の研究力ってどうはかるの？ 」
  ＠信州大学（筑波大学・大阪大学・京都大学）

今後の予定

- 2017　第3回RA協議会にてセッション「人文・社会科学系研究の特性と強みのアピールについて考える」

他大学の人社系URAとも連携しつつ、KURAの取り組みや実績を多方面に発信することで、我が国の人社系研究支援を協力に推し進める　＝**「逆風を乗り越える」**

１０年後の姿【ビジョン（再掲）】

- **書籍・図書**出版業績への評価が高まる
- 人社分野へ**助成の重要性**が認識される
  （同時に、助成が不要であってもそのことが不当に評価されない）
- 研究の**質的評価**の手法が分野ごとに整備される
- 学域超越・文理融合が進み、学際・産連・社会課題解決プロジェクトへの人文社会分野からの参画が増加することによって、**社会への具体的な貢献**が明確になる

「人文的教養の復権」への貢献